



今日の紙芝居は「商那和修」というお話です。

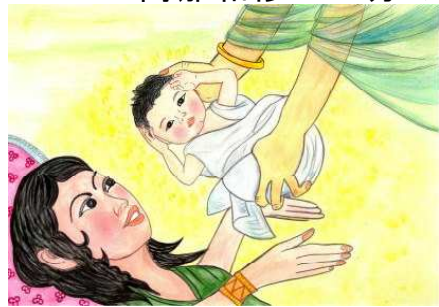
大聖人様は『妙法比丘尼御返事』という御書の中で、このお話を詳しく紹介されています。

そして、真心からの御供養の功德が、計り知れないほど大きいことを、この商那和修のお話を通して、教えられています。

御供養は仏法僧の三宝様にさせていただく、我が身に福運を積んでいくための、大事な仏道修行の一つです。

御本尊様への御供養はいつも真心込めてさせていただくことも大事なことです。特別な時の記念御供養は、その時にしかできない御供養です。そのため毎日毎日コツと貯めて、本当に真心の御供養をさせていただくことが大切です。

そして、御本尊様への真心からの御供養の功德がいかに大きいかを知ってもらいたいと思います。では始めます。



むかしむかし、インドのある村のできぐいとでした。

「おぎやー」「おぎやー」

元気一杯大きな声を上げて、赤ちやんが産まれました。

それはそれは、とてもかわいい、男の赤ちやんでした。

でも、不思議なことがありました。

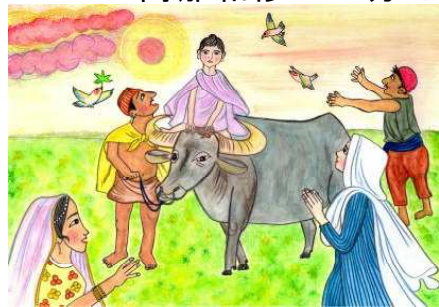
それは、産着うぶぎを着て産まれてきたのです。

どんな人でも、この世に産まれてくるとき

は、みんな裸はだかで産まれてくるのに、

「これは本当に不思議ふしぎな子だ!!」

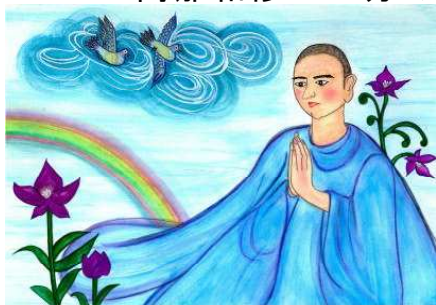
と、お父さんもお母さんも目を丸くしてビツクリしました。



その赤ちゃんが着ていた服は、「商那衣」  
という、麻あさに似た草の皮をあんにで服としたものでした。

産まれたときにも、一切汚いつさいよごれることなく、  
いくらわんぱくに遊んでも、この着物は破やぶれることも、汚きたなくなることも、シミさえも付かないのです。

更さらに不思議なことに、この着物は、子供が  
成長するにしたがって、その身体からだに合わせて、  
いつしよに広く長くなりました。



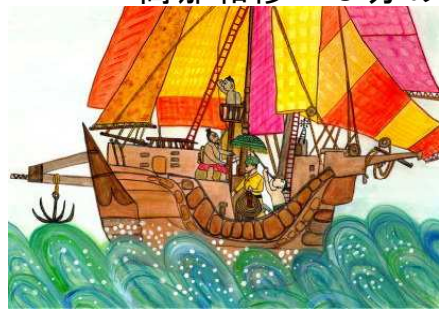
また、更に不思議なことにこの着物は、冬の寒いときには厚くなり、夏の暑いときには薄くなりました。そして、春には青くなり、秋には白くなりました。

大きさは色が、季節や成長によって変わっていても、一切汚れることがありませんでした。いつも、清潔そのものの着物でした。

それはちょうど、池の蓮や、鳥の羽が水に濡れないのと同じようなことでした。

このような不思議な姿には、過去の因縁があることを、仏様は説かれました。

その話とはこういうものでした。



そんな便利な着物を着て産まれてきた、ずっと前の過去無量劫という、往昔に、この人は商人でした。

「おーい。陸が見えないかあー」

「まだ何にも見えないぞー。島一つ無いぞー」と。大きな海をあつちに行ったり、こつちに来たり、船を使って商売をする船の持ち主でした。

いつものように、五百人の商人を乗せて、たくさんの荷物をつんで、ある島に近づきました。すると……





海辺に重い病気になって、大変苦しんでい  
る人がいました。

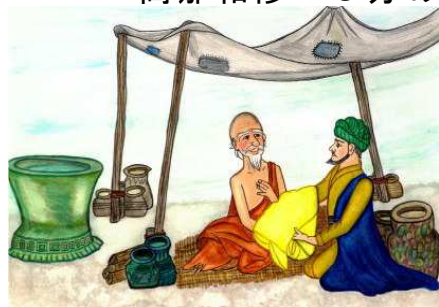
「どうかしましたか？」

「だいじょうぶですか？」

と近づいてみると、それは、辟支仏びやくしぶつという尊とうと  
い聖者せいじゃでした。

見る影もなくやつれ果て、心も弱くなって、  
とても汚きたない中に倒たおれていました。

「これは大変だ。何とか助けてあげなきや」  
と、この船主ふなぬしは気の毒に思い、仕事の途中で  
したが、看病かんびょうを始めました。



薬を飲ませたり、何日もねないで看病しました。

すると、その甲斐あつて、苦しんでいた聖者は、少しずつ元気を取り戻しました。

よく見ると、体中あかだらけで、おまけに着ている衣も、ボロボロでした。

「どうぞお風呂におはいり下さい」と、身体に付いた不浄なものを取り除いてあげました。そして、

「どうぞこの衣を着て下さい」と、商那衣しょうなえという衣を御供養し、着せてあげました。

聖者は、

「あなたは、私を助けてくれて、身の恥を隠してくれた」

と、大変感謝しました。



そして続けて、

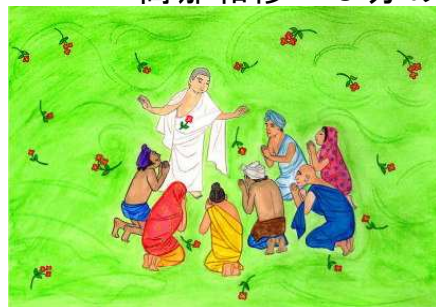
「この衣を、これからずうつと身につける衣  
としよう」

と言い終わると、聖者は、静かに息を引き取  
りました。

商人は大変に悲しみましたが、その時に、  
「できることなら、次の世に、これ以上の聖  
者にお会いしたい。私の心も、毎日の修行も、  
着る衣も、この聖者と同じくして、絶対に異  
ならないようにしよう」  
と、誓いを立てました。

すると、聖者に衣を御供養した功德によつ  
て、その願い通り、過去無量かこむりようという数え切れ  
ないほどの間、最初にお話ししたとおり、産  
まれながらに「商那衣しょうなえ」という衣を身にまと  
い、成長と同じくしてその衣も身に随したがって  
離れることがない、功德を受けることになつ  
たのです。





かくして今世では、仏様が予言されたとおり、阿難尊者あなんそんじやの弟子として出家しゅっけされたところ、その衣ころもは、袈裟けさへと変わり、いつまでもいつまでも身体から離れることがありませんでした。そして、お釈迦様の亡くなった後の、三番目の教えを弘める責任者として、二十一年間、たくさんの人々を導みちびいて仏様の教えを弘められました。

何度産まれても、常にこの麻の衣を身につけていたところから、この人を商那和修しょうなわしゅうと呼ぶようになりました。

この商那和修の一切の功德福運くどくふくうんと不思議な姿は、過去世かこせに衣を御供養したところにあると教えています。

そして、大聖人様は、御本尊様への真心からの御供養は、なおさら大きいものがあると、激励げきれいされているのです。

皆さんも、真心からの御供養ができるように頑張りましたよね。

以上で終わります。